

吉田財団設立40周年記念事業  
令和7年度 特別助成金 活動報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会

理事長 山倉 修一 殿

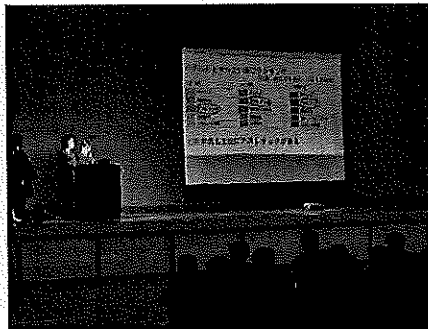
助成事業の名称	「Chance Choice Challenge Change ～うきは市と自分を変える4C～」			
学校名	福岡県立浮羽究真館高等学校			
学校長名	加藤 茂文			
報告者	古賀 美波			
事業の目的	本事業では、2学年の総合的な探究の時間を活用し、校外の方々の協力を得ながら、協働活動を通して「問題解決能力」「多様な価値観を尊重し、協力し合う力」「主体的行動力」を身につけさせることを目的としている。			
実施日(期間)	令和7年 5月 8日 ～ 令和8年 3月 16日			
行事・活動の内容	本事業は、うきは市の発展に貢献することを主眼とした課題研究活動である。そこで、うきは市の魅力を「豊かな山林や農地、筑後川などの自然」と設定し、自然の活用方法を生徒達は考え、課題解決に向けた企画・実施に取り組む。			
対象者・人数	2学年・115名			
目標達成の状況	うきは市活性化をテーマに現地調査やグループごとにアンケート分析、他県事例調査を行い、うきは市議会議員をはじめとする様々な人の前で代表生徒の発表まで実施した。その過程で身に付けさせたい力を涵養することができた。現在は、代表生徒の一案をモデルとして、生徒主体で実践に向けて行動している。			
教育的効果・成果に対する所見等	グループでの協働活動を通して、多様な価値観に触れ、それを尊重しながら合意形成を図る姿が見られた。また、学校外の方々との交流により視野が広がり、社会や職業への関心が高まるなど、職業観・勤労観の育成につながった。			
3年先の姿(希望)に向けた活動計画	1、本事業を通して培った協働的に課題へ向き合う力を基盤に、進学先や就職先においても自ら課題を設定し、他者と協力しながら粘り強く解決に取り組める生徒の育成を目指す。 2、生徒の提案の一案をモデルとして生徒主体で実践を進め、学校外との連携を継続しながら、段階的に活動の質と広がりを高めていく。			
経費区分	合計金額	会計報告		備考
		助成金	自己負担	
①物品	10,888	10,888		家庭用プラネタリウムカラー原板ソフト
②物品	108,108	108,108		天体望遠鏡スペースアイ600
③物品	42,134	42,134		家庭用プラネタリウム
④物品	62,568	62,568		天体望遠鏡ボルクII
⑤物品	93,600	93,600		遮光カーテン
⑥物品	1,485	1,485		フリクションボールB
⑦物品	1,350	1,350		フリクションボールR

⑧物品	204	204		テーブルのり
合計	320,337	320,337		

※ 助成金の用途については、領収書(写し可)を任意の台紙に添付して、ご報告願います。

活動状況の写真等(当日の様子など)

○ 11月13日(木) 課題研究発表会



うきは市議会議員をはじめとする多くの人に審査員としてご参加いただき、課題研究発表会を行いました。生徒の発表資料は別紙をご参照ください。

○ 2月7日(土) 天体観測会(生徒の提案の一案)→曇天のため延期

3月14日(土) 本校にて実施

〈準備風景〉

〈実施風景〉



2月7日(土)の実施に向けて、企画書作成、天体観測会の準備を生徒主体で行っていました。

しかし、7日(土)が曇天だったため実施することができず、3月14日(土)に延期しました。

延期した結果、参加人数は少なくなりましたが、無事に実施することができました。最初に星について説明し、その後望遠鏡を用いて実際に天体観測を行いました。時にはクイズを入れながら説明するなど、参加してくれた子どもを飽きさせない工夫が随所に見られました。また、子どもと同じ目線となって話しかける姿も見られました。時期と時間の関係から月を見ることは叶いませんでしたが、木星や土星を観測することができました。

今後の活動見通し・課題

生徒提案の一案である地域の子どもの向け天体観測会をモデル事業として位置づけ、天候等の条件を考慮しながら3月の実施を目指して準備を進めている。実施後は活動の成果や課題を整理し、探究的な学習の枠を越えた、学校全体の取組みとして位置づけたいと考えている。今後は地域関係者と連携を一過性に終わらせることなく、継続的に協働できる体制を構築するとともに、次年度以降の教育活動へとつなげていくことが課題である。